



はじめに

就任のご挨拶

—VUCAの時代の工学振興—

公益財団法人 新潟工学振興会

理事長 田邊 裕治

暑さが日一日と増しておりますが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。私こと、今般、前理事長の大川秀雄先生の後を受けて、理事長を拝命いたしました。何卒、宜しくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症も去る5月に5類感染症に移行となり、マスク装着をはじめとした行動の制限は随分と緩和された感はありますが、根本的に解決をみたわけではなく、引き続き注意が必要と思います。

さて、日頃から当財団へ多大なるご支援をいただいております県・市町村をはじめ賛助会員企業・新潟大学工学部同窓会並びに県内の関係大学等の皆様に、ご挨拶をさせていただきます。当財団が毎年事業を円滑に実施できておりますことは、ひとえに皆様方からのご支援、ご協力等、物心両面からのお力添えによるもので、ここに衷心より厚くお礼申し上げます。ご承知のとおり、当財団の運営は基本財産の果実を主体にしていますので、利率の多寡がとても重要になっております。昨今の物価の高騰と低金利策の継続を考えますとこの先のことが懸念されますが、運用方法の弾力化・多様化によって、何とか凌いで行きたいと考えております。基本財産の利率運用に加えて、皆様方からの毎年の寄附金・賛助会費は財団運営のもう一つの原動力であり、大変重要な活動の原資となっております。厳しい状況であると認識しておりますが、変わらぬご支援をお願いする次第です。

ところで、VUCAの時代（予測不可能な時代）の中、世界規模ではSDGsが提唱され、我が国では少子超高齢化社会への対応を筆頭に、成長分野としてデジタルとグリーン分野、高度情報化社会の到来、産業・経済の国際競争力の低下、地方創生等が喫緊の課題として挙げられています。ほぼ全ての社会活動が知識、そして技術に支えられている「知識基盤社会」あるいは「技術基盤社会」になった現状を見ると、社会活動と地域経済振興を結びつけることが重要と考えます。また、地域の視点からは、地域には独自の歴史、伝統、文化、資源そして産業があり、これら地域の特性を経済活動の基盤とし、加えて地域に暮らす人たちのwell-being（物心両面で幸福である状態）の実現のために、継承、発展、振興を図ることが必要です。これらの社会を支える知識や技術、地域特性とwell-beingの関わりといった問題の解決に向けては、複数の領域にわたる知識を統合した「総合知」と呼ばれるものが必要であり、その素養を身に付けた人材すなわち「知のプロフェッショナル」としての技術者が、今、正に求められています。そしてその技術者の育成には工学を基礎とした教育（工学教育）が欠くべからざるものであり、ここに工学の振興が強く求められると考えております。

勝手なことを述べましたが、ともあれ、知識基盤社会が目指すwell-beingの実現には工学と工学に裏打ちされた技術の発展が必要不可欠であり、そのために当財団が寄与できるよう、何卒、会員各位のお力添えを賜りたくここにお願い申し上げます。

終わりに、これから暑さが厳しくなる折、皆様方のご健康と益々のご発展とを祈念し、就任のご挨拶とさせていただきます。